

## 春たけなわの明るい散歩道・・・ 越上山

実施日 2014年4月12日(土)  
 天候 晴れ  
 リーダー 遠井 謙策  
 参加者 佐藤金冶、一柳昭、涌井良明、  
 島本陳重、鈴木政三、山崎富  
 美恵、白石恵美子、小村井好  
 枝、石附智江、渋谷賢寿、渋  
 谷京子、遠井謙策、中村友子、  
 伊藤久雄、石原勝正、徳山敬  
 子、石附智子、佐藤政司、滝  
 澤きよの、白石佐恵 計20名  
 費用 1,160円(池袋駅起算)  
 タイム 吾野駅(8:40)顔振峠(10:05)雨  
 乞い塚展望台(10:20)諏訪神社  
 (11:00-11:35昼食)越上山(11:  
 55)十二曲り(12:50)エビガ坂  
 (13:20)ユガテ(13:50)福德寺(1  
 4:45)東吾野駅(15:05)

悲喜こもごもの冬の「ソチ」が去りゆき、暖かな陽射しの春が今年もやってきた。しかし、人間社会からは争いごとや揉め事が収まることは無い。STAP細胞研究にメスが入ってノーベル賞学者が奔走し、イスラムやタイが静かになったと思う間もなく、ウクライナ・クリミア問題。米ロ冷戦の再来に止まらず、世界戦争への火種ともなりかねない。そして、あのマレーシア航空機は一体何処へ行ってしまったのだろうか？

さて「こぶし会」。大雪に閉じ込められ満を持していた会員、うららかな好天予報も手伝って直前の駆け込み参加申込みが殺到、当日朝の西武線吾野駅には、

20名もの大量メンバーが集集合した。

小学生の遠足よろしく、やおらホイッスルを取り出すリーダー。「ピッピッピッ」と出発の合図と共に大デレゲーションは歩き出した。



期待に応えるように、早速薄桃色にほほ染めた、都会より10日余り遅れて満開のソメイヨシノが我々を歓迎する。レンギョウの黄色も華やかで、路傍には水仙、カタクリ、タチツボスミレ、花咲く里山の様はさながら桃源郷のよう。

しばらく舗装路を行くが、車道が大きく左へカーブする辺りで、杉や檜の植林帯の登山道へ入る。うす暗い坂道をくねくねと登る。ウグイスの囀りに対抗するかのようになり、高校時代夢中になったオクラホマミキサーを口ずさむうち、集落が点在する斜面に出る。顔振峠直下の「魔利支天尊」から見る西側秩父



方面には、手前の見事な今を盛りの艶やかな桜と目にも鮮やかなミツバ

ツツジ越しに、丹沢連山、大岳山、奥の真白の富士を挟んで、武川岳、大持山



そして武甲山の山並みが映える。義経ならずとも顔を何度も振り返ってしまう。

峠の茶店のばあさんは“いけず”で残念だったが、一息で登った少し上の見晴台（雨



乞い塚)からは北側の眺望。関八州見晴台やパラボラのある堂平山を見通す。

撮影会の後、道標に従い整備された山腹を巻いて行くと諏訪神社。陽だまりの広い境内が気持ち良いので、少し早い昼食タイムとする。今回も女性たちからの各種差入れがあり有難い。

十分にエネルギー補給と休憩を摂り、越上山へ向う。

途中可憐なイワウチワを見つけ、ちょっと緊張の岩場を過ぎると、566.5mの三等三角点のある頂に着く。「拝み山」「お神山」の説がある神秘の山だが、展望も無く手狭な為（何せ20名の大所帯だ）間をおかずに下りていく。



時折り林道を横切り、アップダウンを繰り返しながら十二曲り・エビガ坂へと単調な尾根道を行く。



木漏れ日と吹き渡る風が心地良い。下り始めて間もなく民家と畑の山上集落ユガテに着く。

「ユガテ」とは高い平地であると飯能



市の資料にあるが、昔湯が天にも届くほど沸いていたという説もあり、

夢見る私は後者を支持したい。ここも明るい花の楽園で、ハナモモ、桜、ハナニラ、ムスカリやフグリ等百花繚乱。広場では小さな宴の団体も。我々も早く喉を潤そう！

根っこだらけの尾根道を更に下り福德寺を經由して東吾野の駅に到着した。

案内の通りたけなわの春を十二分に満喫頂けたと思うが、思いの外時間を要し、「これが散歩道かあ!？」との声がそちこちで聞こえたような気がしたが空耳であろう？

(記・遠井 謙策)  
(写真提供・涌井 良明)

